令和４年台風第14号による災害からの復旧について

宮崎県県土整備部 河川課 災害担当　三林（みばやし）　聖（さとし）

１．はじめに

令和４年９月18日から19日にかけて九州を縦断した台風第14号は、宮崎県に記録的な豪雨をもたらし、県全域で河川の氾濫や土砂災害等が発生し、死者３名、家屋被害は約2,000棟にのぼり、公共土木施設のほか、県の基幹産業である農林水産業も甚大な被害を受けました。

今回は、本県における被害の状況から復旧に向けた取組、その後の状況等について御紹介します。

(1)　宮崎県の概要

宮崎県は九州の南東部に位置しており、北に大分県、西に熊本県、南西に鹿児島県、そして、東には約400kmに及ぶ海岸線が日向灘に面しています。

県土面積は7,734㎢で、九州では鹿児島県に次いで２位、全国でも14位の広さを誇り、県の西部には九州山地と霧島連山を抱え、県土面積の約76％を占める広大な森林を有する全国有数の林業県であるとともに、そこから生まれる豊富な水資源を生かした農業や水力発電も盛んに行われています。

図－１　令和４年台風第14号に伴う被害の状況

⑵　宮崎県の気候

沿岸を北上する黒潮の影響で、全国でも有数の年平均気温、日照時間、快晴日数を誇る温暖な気候から、「日本のひなた宮崎県」を標榜する本県ではありますが、年間降水量は平均で2,600㎜、多い年では3,000㎜を超えるなど全国トップクラスであるとともに、位置的に台風の通過コースとなりやすく、過去には台風銀座とも呼ばれたほど、雨や台風による災害が発生しやすい気候となっています。

２．令和４年台風第14号による災害

⑴　気象概要

令和４年９月14日に小笠原近海で発生した台風第14号は、大型で非常に強い勢力を維持しながら九州に接近し、18日19時頃に中心気圧935hPaの非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸、18日22時頃に本県に最接近し、19日朝にかけて九州を縦断しました。

県では、17日に災害対策本部を設置し、全市町村に対して、災害が発生する前の段階から災害救助法を適用するなど、早期の対応に努めました。また、県内の30箇所のダムで事前放流を実施し、このうち県管理の13箇所のダムのうち７箇所では、通常の洪水調節容量に加えて約2,600万㎥の容量を追加で確保し、洪水に備えました。

台風第14号とそれに伴う雨雲の影響で、県内では15日から雨が降り続け、広い範囲で500㎜を超える総雨量を観測しました。18日の午後から19日にかけては、県内15の市町村に大雨特別警報が発表され、県内全ての市町村で避難指示が発令されたほか、16の市町村で警戒レベル５の緊急安全確保が発令され、ピーク時には6,298世帯11,985人の住民が避難を実施しました。

特に県北部の山間部においては、線状降水帯の発生が２度確認され、24時間雨量が1,000㎜近くに達した地点もあるほどで、複数箇所で統計開始からの最高記録を更新するなど、記録的な豪雨となりました。

⑵　被害の状況

県内では、土石流が13箇所、がけ崩れが51箇所で発生したほか、県管理の洪水予報河川・水位周知河川35河川の48箇所の水防基準点うち、20河川の27箇所で氾濫危険水位を超過し、５箇所のダムで異常洪水時防災操作を実施する事態となりました。

家屋の被害は、全壊・半壊・一部損壊928棟、床上浸水580棟、床下浸水540棟、合計2,048棟に達し、また、死者３名、重軽傷者26名という人的被害も発生しました。

県管理道路における全面通行止めは、ピーク時には83路線122区間に達し、一部では集落の孤立や停電、断水も発生しました。道路の啓開や仮復旧の進捗に伴い、停電等は順次解消されていきましたが、地域の幹線道路の全面通行止めが長期化した箇所もあり、地域の生活や産業に大きな影響を及ぼしました。

公共土木施設の被害は、県と市町村を合わせて、河川373箇所、砂防設備４箇所、地すべり防止施設１箇所、急傾斜地崩壊防止施設１箇所、道路994箇所、橋梁３箇所、港湾６箇所、下水道３箇所、公園３箇所の計1,388箇所、査定決定額は約347億円となりました。

最終的に、農林水産業やその他の被害も含めた県全体の被害額は約722億円に上り、これは、一つの台風による被害としては、平成17年９月の台風14号

表－１　令和４年台風第14号に伴う降雨の状況

最大時間雨量　上位10地点				最大24時間雨量　上位10地点				R4.9.17～19期間総雨量　上位10地点			
観測地点	市町村	雨量	日時	観測地点	市町村	雨量	日時	観測地点	市町村	雨量	日時
渡川ダム	美郷町	94.0	18日19～20時	渡川ダム	美郷町	957.0	18日4時～19日4時	奥　村	椎葉村	1146.0	17日0時～19日24時
えびの中継局	えびの市	90.0	18日18～19時	見　立	日之影町	925.0	18日1時～19日1時	渡川ダム	美郷町	1126.0	17日0時～19日24時
奥　村	椎葉村	71.0	18日19～20時	奥　村	椎葉村	894.0	18日1時～19日1時	見　立	日之影町	1079.0	17日0時～19日24時
見　立	日之影町	69.0	18日14～15時	えびの中継局	えびの市	873.0	18日1時～19日1時	えびの中継局	えびの市	1048.0	17日0時～19日24時
高鍋(国)	高鍋町	69.0	18日19～20時	上祝子(国)	延岡市	824.0	18日9時～19日9時	渡川ダム流域	美郷町	990.0	17日0時～19日24時
柚ヶ内(国)	延岡市	68.0	18日21～22時	田代八重ダム	小林市	820.0	18日3時～19日3時	大藪川合流	椎葉村	941.0	17日0時～19日24時
神門(気)	美郷町	68.0	18日19～20時	大藪川合流	椎葉村	814.0	17日18時～18日18時	田代八重ダム	小林市	926.0	17日0時～19日24時
尾八重	西都市	68.0	18日19～20時	渡川ダム流域	美郷町	767.0	18日4時～19日4時	三股(国)	三股町	913.0	17日0時～19日24時
下鹿川	延岡市	67.0	18日20～21時	えびの(気)	えびの市	726.0	18日9時～19日9時	えびの(気)	えびの市	903.0	17日0時～19日24時
上古園	美郷町	67.0	18日16～17時	三股(国)	三股町	724.0	18日0時～19日0時	上古園	美郷町	900.0	17日0時～19日24時

表－2　令和4年台風第14号に伴う公共土木施設被害の状況

（査定決定ベース、単位：千円）

工種	県管理施設		市町村管理施設		合計		箇所割合
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	（%）
河川	229	9,208,546	144	3,548,715	373	12,757,261	26.9%
砂防	4	63,408	－	－	4	63,408	0.3%
地すべり	1	588,754	－	－	1	588,754	0.1%
急傾斜	1	37,382	－	－	1	37,382	0.1%
道路	208	8,174,671	786	11,949,285	994	20,123,956	71.6%
橋梁	1	4,960	2	73,138	3	78,098	0.2%
港湾	6	600,307	－	－	6	600,307	0.4%
下水道	－	－	3	396,546	3	396,546	0.2%
公園	1	15,234	2	70,589	3	85,823	0.2%
計	451	18,693,262	937	16,038,273	1,388	34,731,535	

による被害に次いで、過去2番目に大きな規模の災害となりました。

3．復旧に向けた取組

(1)　災害緊急調査等の実施

今回の被災については、被害が広範囲にわたり、規模、箇所数も大きいことから、国土交通省本省災害査定官による災害緊急調査を要請し、令和4年9月29日～30日と10月12日～14日の2回にわたり、2市1町2村の11箇所において調査を実施しました。

図－2　災害緊急調査の様子（TV 報道）

さらに、国土技術政策総合研究所、土木研究所による現地調査、国土交通省 TEC-FORCE の派遣など、現地において様々な技術的な支援、助言をいただきました。

こうした被災後初期段階における様々なサポートのおかげで、その後の被災範囲の決定や復旧工法の選定、査定・復旧の実施について、スムーズに取り組むことができました。

(2)　権限代行による仮橋設置

県北西部に位置する諸塚村の国道327号において、令和4年9月19日に道路の崩壊が発生し、全面通行止めとなりました。

当該路線は地域における重要な幹線道路ですが、崩壊の規模が大きく、復旧には長期間を要することが見込まれました。また、迂回路も狭隘で距離が長く、大型車の安全な通行が困難であることから、本県の災害復旧事業としては初めて、県知事から国に対して権限代行による応急復旧を要請し、10月18日に実施が決定されました。

図－3　仮橋設置前後の状況

その後、工事は順調に推移し、令和５年４月28日に仮橋が開通し片側交互通行による車両通行が可能となり、被災から約７ヶ月間で、地域の重要な幹線道路としての機能を回復することができました。

⑶　早期確認型査定の実施

台風第14号による被害を受けて、本県では令和４年11月から令和５年２月の期間で計７回、延べ40班による災害査定を計画し、鋭意対応を進めていましたが、特に山間部の小規模自治体などにおいては、役場の職員も地元の建設関連業者も人手が圧倒的に不足し疲弊している状況であり、災害査定の効率化が緊急の課題でした。

そこで、被害の集中していた県北西部の美郷町、椎葉村において、早期確認型査定の試行制度を活用することとしました。

早期確認型査定の前査定は令和４年10月中旬と11月中旬の２回実施され、計53箇所について、現地で被災の事実と範囲、復旧方針について確認した上で、令和５年１月下旬に実施した後査定において、詳細な復旧内容について決定を受けました。

慣れない査定方法に戸惑う部分もありましたが、前査定における資料の簡素化のおかげで、初動時の負担軽減につながったとともに、起終点や復旧方針について事前に確認を受けられたことによって、後査定に向けた整理もスムーズに進めることができました。

図－４　早期確認型査定の様子

⑷　様々な応援態勢

早期復旧に向けた本県独自の取組として、特に被害の大きい山間部の自治体、及び県の出先事務所に対し、県から応援職員を派遣し、被災状況の調査や災害査定に向けた資料作成等の支援を行いました。発災直後から令和５年１月までの間、延べ464人が、現地の職員、建設関連業者等とともに業務に従事しました。

また、県の災害復旧エキスパート制度を活用し、市町村に対して、県の土木職OB等から構成されるエキスパートチームを派遣し、復旧工法や今後の対応等についての技術的な助言、支援を行いました。

その他にも、県と災害時連携協定を締結している様々な建設業等関連団体も、台風接近前の段階から応援態勢を整えた上で、発災直後から県内各地へ赴き、被災状況の調査や応急復旧作業に尽力され、県民の皆様が早期に日常生活を取り戻すために、重要な役割を果たしていただきました。

３．復旧に向けて

早いもので被災からもう２年が経過しようとしていますが、被災箇所が1,400箇所近くに上ったことで、工事の入札不調・不落なども重なり、復旧が完了した箇所は全体の55％程度にとどまり、山間部ではまだ未着手の箇所も残存しています。

引き続き、令和４年の台風第14号で被災した全箇所の早期復旧完了に向けて、各自治体や建設業者、地域の皆様と連携しながら、力強く取り組んで参ります。

表－３　令和４年台風第14号被災箇所の復旧進捗状況

施設	箇所数	契約済		完成済	
		箇所数	率	箇所数	率
県	451	368	81.6%	238	52.8%
市町村	937	773	82.5%	527	56.2%
合計	1,388	1,141	82.2%	765	55.1%

（査定決定箇所数ベース、令和６年６月末時点）

４．おわりに

宮崎県は全国でも有数の温暖な気候から、一年を通して楽しめるマリンスポーツやゴルフ、アウトドアレジャーのほか、プロスポーツのキャンプ見学等も人気を集めています。

また、日本神話の源流となった高千穂などのパワースポット巡りや、宮崎牛や鶏料理、季節のフルーツなどのグルメまで、一人一人の好みに合わせて五感で楽しめる観光、体験メニューを盛りだくさん取りそろえています。

他の地域の有名観光地ほど混んではいないので、落ち着いてゆっくりと観光したい方には大変おすすめです。

さらに、令和４年の台風第14号の影響でアクセス道路が寸断し、その後、営業を休止している日本最南端のスキー場「五ヶ瀬ハイランドスキー場」についても、今シーズンの営業再開を目指し、アクセス道路の復旧や施設の準備に取り組んでいます。

台風第14号からの復旧、復興に、今後とも全力で取り組んで参りますので、皆様も是非本県を訪れて、南国宮崎のホスピタリティを実感していただければ幸いです。